

意見交換における外部有識者からの主な意見

(猛暑年の振り返りと今後の営農技術対策について)

- 昨年の猛暑においても高収量だった生産者の事例報告が知りたい。普及活動は地域の底上げに向けた取組という印象があるが、それに加えてレベルの高い農業活動を行う生産者へのアプローチも行ってはどうか。
- 猛暑の影響はどの作物にも生じた。この状況が続けば、品種改良や作物の選定にも変化が生じる。先の読めない気象条件下で安定的に食料を生産するにはどうすればよいか考えていくことが必要と感じた。
- 猛暑にはやむを得ず作業を見送ったり、どうしても作業をしなければならぬときに家族が体調を崩したり作業中にけがをしたりと、大変な年だった。
- 飼料用とうもろこしの生産ほ場では「つる草」が多く、収穫に時間と費用がかかるために収穫をあきらめた生産者もいた。除草剤以外に対処方法がなく、頭を悩ませた。つる草だけでなく病害も発生し、収穫時期の調整に苦労した。
- 関係機関・団体とともに、てん菜の低糖分対策について検討を行った。昨年てん菜の褐斑病が多発したことが、今年が発生にも影響することをあらかじめ考慮して、技術対策を検討することが重要。
- 昨年見られた小豆の青莢は、研究職員や普及指導員に聞くと解決は難しいと聞くが、引き続き情報を集めて対応したい。
- さつまいもやらっかせいの作柄はよかったと聞いている。また、高温耐性を持つ品種の必要性や、これを従来品種とどう組み合わせるかと聞いた声を生産者から聞いている。

(人材育成について)

- 親世代の農業者が、その子供に確実に経営を継承できるような取組が重要。
- 子供に農業の魅力を伝えるために、農家出身以外の方も多いためと思われる普及指導員が、どのようにして農業に興味を持ったのかについて意見を聞きたい。
- 生産者への情報提供に SNS を活用してはどうか。
- 人手不足の問題は農業に限らず全業種の課題。異業種間での確保競争が見込まれるため、余力のあるうちに ICT を活用した省力化などを進めておくことが重要。

(普及活動について)

- 普及活動の蓄積がたくさんある中で、その実績が生産者に伝わらないのはもったいない。生産者に伝わる方法が出来れば良いと思う。
- 普及センターに集まる膨大な情報に外部からアクセスしやすくしてほしい。取りまとめられた結果だけではなく、具体的な生の情報も知りたい。

- 農業者への情報提供に、SNS を活用するのも効果的ではないか。
- 大学と共同で取り組んでいる畜産の関係の研究では、普及指導員による実証・実践が非常に重要であり、今後も協力をお願いしたい。